

# 冤罪被害議員の名誉回復を求めて

特捜検察による不当捜査、不当裁判の冤罪被害を受けた  
小沢一郎さん 石川知裕さんらの名誉回復を！



【陸山会事件】09年3月、西松建設事件(ダミー団体経由の献金疑惑)で、当時の小沢一郎議員秘書の大久保隆規さんが東京地検特捜部に逮捕。10年1月、陸山会事件で石川知裕議員、池田光智さんも逮捕。現在公判中のこの一連の事件は、政権交代直前の当時、自民党内閣の法務相が指示した国策捜査と指摘されています(平野貞夫『永田町漂流記』)。

目的は、政権交替阻止と、小沢一郎議員の政治的抹殺だったと見られます。もと秘書らに対し、東京地裁の登石郁朗裁判長は、違法の証拠なく、一方的「推論」によって有罪とする不当判決を下し、石川議員らもと秘書は不服として控訴中です。

【捜査報告書の『虚偽記載』】今年12月15日の陸山会事件公判で、石川知裕さんを保釈後に再聴取した田代政弘検事が、捜査報告書に、実際には交わされていないやりとりを記載していることが明らかになりました。捜査報告書には、「有権者に選ばれた国会議員が、やくざの手下が親分を守るよううそをついてはいけない」と田代検事から言われたのが効いたと供述した、等記されていますが、石川さんが隠し録音していたため、そのような会話はなかったことが判明。また、「汚いカネというのは検察が勝手に言っている。証拠はない」など、事件性の否定につながる検事発言も、録音に残っています。

【元検事が『小沢さんは無罪』】翌16日には、郵便不正事件のフロッピーディスク改竄で服役中の前田恒彦元検事(大久保氏の聴取担当)が、地検特捜部による小沢一郎議員のウラ金捜査を、「妄想」と証言、陸山会事件が政治的な意図による国策捜査であったことが確認されつつあります。

「陸山会事件を積極的に小沢さん(立件)までつなげたがっていたのは、当時の佐久間特捜部長と木村主任検事、大鶴次席検事ら一部の幹部でした。次の(大林)検事総長(当時、東京高検検事長)も乗り気ではありませんでした。それでも(部長らは)1億や2億、場合によっては4億円を出してこいと(現場に)言うてくるのです。私は佐久間部長に、想定しているスジ(ストーリー)を聞いてみました。夢みtainな話、妄想を語られました。私は率直に『裏献金は難しい』と言いました。ほかの検事も『無理』と言っていました」「ゼネコンや下請けの捜査員を増やしたのに調書がないでしょう？ 裏金を渡しているという検察の想定と違う取り調べ内容は証拠化しないんですよ」

12月17日 日刊ゲンダイ 「小沢茶番裁判すぐ中止しろ」

既得権益と結びついた政治権力が特捜検察を発動、マスメディアを通じて国民を偏向報道で誘導し、民主制代議士のの社会的生命を奪うという暴挙が、これまで繰り返されてきました。本日デモは、こうした蛮行を二度と起こさせないために、国民同胞に真相を呼びかけるために実施しました。鈴木宗男さん、小沢一郎さん、石川知裕さんは無実です。

小沢一郎支援デモ実行委員会 <http://ozawa-risen.cocolog-nifty.com/blog/>